

学位論文及び審査結果の要旨

横浜国立大学

氏名	岡野 隆宏
学位の種類	博士(環境学)
学位記番号	環情博乙第 426 号
学位授与年月日	平成 29 年 9 月 15 日
学位授与の根拠	学位規則(昭和 28 年 4 月 1 日 文部省令第 9 号) 第 4 条第 1 項及び 横浜国立大学学位規則第 5 条第 2 項 (論博の場合は第 2 項)
研究科(学府)・専攻名	環境情報学府 環境リスクマネジメント専攻
学位論文題目	わが国の国立公園における多元的な価値の共有による地域と協働した保護管理のあり方に関する研究 (A study on cooperative management of National Park in Japan by the sharing of diverse values)
論文審査委員	主査 横浜国立大学 教授 松田 裕之 横浜国立大学 教授 小池 文人 横浜国立大学 教授 及川 敬貴 横浜国立大学 教授 酒井 暁子 横浜国立大学 教授 加藤 峰夫

論文及び審査結果の要旨

自然保護地域は、一般的には学術的な価値から指定され、その価値を保護するための行為規制や保護対策が行われる。しかし、地域住民が当該地域に見出す価値はしばしば学術的な価値と異なり、保護地域における利用規制は地域住民と自然との関係性の断絶を招く。また、地域住民が日常的に利用することで維持されてきた植生や景観が学術的な価値を持つことも少なくない。地域住民の理解と協力を得て、保護地域の管理運営を行うためには、地域住民と自然との関係性を把握することが重要である。その上で、共有された多元的な価値を対外的に適切に示すことで、観光地としての魅力向上やブランド化など地域産業の活性化に貢献することを期待される。

本論文では、自然保護地域の中で地域制をとる日本の国立公園を対象に、公園指定の経緯と国際的保護地域である世界遺産及び生物圏保存地域の国内での取組事例の分析から、国立公園と地域住民との関係に焦点をあて、多元的な価値の共有による地域と協働した保護地域のあり方について論じた。第 1 に、わが国最初の国立公園候補地選定の際の議論を詳細にたどり、国立公園行政側が地学的型式において傑出することを最も重視したことが明らかとなった。それは原生的自然でなく地域住民の営みによって維持されてきた半自然草地を主たる景観要素とする阿蘇くじゅう国立公園の例でも確認できた。第 2 に、世界遺産登録に際し厳しい審査が課されることで、地域連絡会議の設置、管理計画の策定、科学委員会が設置など、保護管理の仕組みを発展させ得ることを明らかにした。また、1987 年以降にユネスコの生物圏保存地域の概念に「持続可能な発展」が加わったことから、わが国の地域制の国立公園制度と親和性が高く、「自然と共生する世界」のモデル地域として活用の可能性を明らかにした。第 3 に、世界自然遺産と生物圏保存地域の両方に登録されている屋久島において、世界遺産や国立公園が人と自然の関わりを十分に評価していないことから、移行地域を伴った生物圏保存地域を島全体に拡張することを提案した。以上から、①国際的な自然保護地域の概念の変遷、②国際的な自然保護地域導入の効果と課題、③世界遺産と生物圏保存地域の協働管理の相違、④地域制自然公園における国立公園と地域の社会経済との関係、⑤地域地区の機能の見直し、⑥順応的ガバナンスの視点からの協働型管理運営のあり方、⑦生物文化多様性と環境文化の重要性、の視点からわが国の国立公園の協働型管理運営のあり方を論じた。

以上から、博士(環境学)の学位論文として十分な内容を有していると判定した。